

2025

12

VOL. 1068

# 広報

# そでがうら

もっとそでがうらが好きになる、キミが主役の広報紙

未来を、耕す。



• 今月の表紙

## 未来を、耕す。



水稻や野菜、酪農、養鶏など、さまざまな農畜産業が盛んな袖ヶ浦。一方で、農業者の高齢化や担い手不足といった課題も存在します。

今月号では、新規就農者が語る農業の魅力や熱意を紹介します。

令和7年12月1日発行 第1068号  
編集・発行 袖ヶ浦市秘書広報課  
〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1-1  
TEL 0438(62)2111(代表)  
TEL 0438(62)2465(直通)  
FAX 0438(62)3034  
▶袖ヶ浦市の市外局番は「0438」です。

市長の  
公務の様子などを  
紹介中！



ようこそ  
市長室へ

袖ヶ浦市長  
柏谷智浩

さて、今月号の特集では、市内で活躍する新規就農者の皆さんにインタビューを行い、本市で農業を始めたきっかけや今後の展望についてお話を伺いました。若き担い手の皆さんのお話をして、農業の魅力ややりがい、そして未来への熱い思いを感じていただければ幸いです。今年も残すところあとわずかとなりました。市民の皆さんにおかれましては、何かご多忙のことと存じますが、健康に留意され、良いお年をお迎えください。

2025  
12  
VOL. 1068

P  
03  
I  
05

TOPICS

- 07 パブリックコメント 意見を募集します
- 08 I 市職員の人事・給与などの状況を公表します
- 09
- 10 I イベント&お知らせ
- 17
- 18 I 年末年始のご案内  
ごみ・資源物の収集／休日当番医 ほか
- 19
- 20 20 袖ヶ浦市新ホームページ  
フォトコンテストを行います
- 21 緊急連絡先などのご案内／相談案内
- 22 22 12/6 そでがうらウインターフェスト2025



市の人口

R7.11.1現在

人口……66,051 (+15)  
男……33,526 (+13)  
女……32,525 (+2)  
・転入…206 　・転出…167  
・出生…37 　・死亡…61  
世帯……30,280 (+30)

今月の

市長メッセージ

師走を迎え、街の風景も冬の装いを深めてまいりました。先月は、市民会館まつり・公民館まつり、袖ヶ浦美術展、市内一斉清掃など、多くの市民の皆さんにご参加、ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

# 未来を、耕す。



袖ヶ浦市は、肥沃な農地や温暖な気候に恵まれ、古くから水稻を中心に、さやいんげんや大根、レタス、とうもろこしなどの栽培が盛んで、県内外に広く出荷しています。

また、酪農や養鶏、果樹栽培なども行われており、1年を通してさまざまな農畜産物が生産されています。

しかし、近年は高齢化などの影響により農家数が減少しており、担い手不足や耕作放棄地の増加、有害鳥獣による農畜産物の被害など、多くの課題を抱えています。

その中で、「農業を仕事にしたい」と、希望を胸に新たに農業の世界へ飛び込む方がいます。

今月号では、市内で活躍する若手の新規就農者に、農業の魅力ややりがい、農業への熱い想いを伺いました。

問 農林振興課

☎ (62)3426  
FAX (62)7485

市内農家さんの作った農畜産物が販賣でできます！

日時 12月6日（土）午前9時30分～午後2時30分

場所 袖ヶ浦市役所

内容 農畜産物の即売会、自動車・農機の展示販売、米すくいどり、大抽選会ほか

問 君津市農業協同組合本店

☎ 0439(70)1331

ゆりの里 年末感謝祭

日時 12月20日（土）午前9時30分～午後2時

場所 農畜産物直売所 ゆりの里  
内容 生産者などによるPR販売  
ほか

問 ゆりの里 ☎ (60)2550

## 新規就農を目指す方へ

市では、新規就農を検討・希望する方の相談を随時受け付けています。ほか、各種研修制度や国、県、市それぞれの補助などの支援制度をご案内しています。

▼ 詳細は、市ホームページを確認ください。



就農支援のページ

問 農林振興課  
☎ (62)3426  
FAX (62)7485



# 次世代へつなぐ 農業を

みずち ゆうき  
水地 悠樹 さん

農業法人へ参画し、農業後継者として農業を始める。

## 袖ヶ浦市を選んだ理由

袖ヶ浦市での就農を決めた理由は、温暖な気候と広い農地が確保できること、そして東京や横浜といった大きな消費地への近さに魅力を感じたからです。専門学校時代には、道の駅で販売されている商品の生産者に直接連絡を取つて、就農先を探していました。

これから農業を始めたい方へ

それでも、一つひとつ失敗を経験として積み重ね、自分なりのやり方を見つけて、少しずつ成長していくたらと思っています。



**子どもの頃の体験が「原点」**

神奈川県横須賀市で生まれ育ち、群馬県の農業専門学校を卒業後、平川地区と福島県の農園でそれぞれ1年間、野菜づくりの基礎を学びました。そして3年前から、百田木営農組合で働いています。

農業を志したきっかけは、子どもの頃に、福島県できゅうり農家を営む母の実家で農業体験をしていたことがあります。祖父母の家を訪

**子どもの頃の体験が「原点」**

神奈川県横須賀市で生まれ育ち、群馬県の農業専門学校を卒業後、平川地区と福島県の農園でそれぞれ1年間、野菜づくりの基礎を学びました。そして3年前から、百田木営農組合で働いています。

農業を志したきっかけは、子どもの頃に、福島県できゅうり農家を営む母の実家で農業体験をしていました。祖父母の家を訪れるたびに、農業の楽しさに触れ、「この道に進みたい」と思うようになりました。

**袖ヶ浦市を選んだ理由**

現在は、組合でどうもろこしやレタス、お米を中心と育てています。最近は、新たにセロリの栽培にも挑戦し始めました。

袖ヶ浦市での就農を決めた理由は、温暖な気候と広い農地が確保できること、そして東京や横浜といった大きな消費地への近さに魅力を感じたからです。専門学校時代には、道の駅で販売されている商品の生産者に直接連絡を取って、就農先を探していました。

## 袖ヶ浦市を選んだ理由

**子どもの頃の体験が「原点」**

神奈川県横須賀市で生まれ育ち、群馬県の農業専門学校を卒業後、平川地区と福島県の農園でそれぞれ1年間、野菜づくりの基礎を学びました。そして3年前から、百田木営農組合で働いています。

農業を志したきっかけは、子どもの頃に、福島県できゅうり農家を営む母の実家で農業体験をしていました。祖父母の家を訪れるたびに、農業の楽しさに触れ、「この道に進みたい」と思うようになりました。

**袖ヶ浦市を選んだ理由**

現在は、組合でどうもろこしやレタス、お米を中心と育てています。最近は、新たにセロリの栽培にも挑戦し始めました。

袖ヶ浦市での就農を決めた理由は、温暖な気候と広い農地が確保できること、そして東京や横浜といった大きな消費地への近さに魅力を感じたからです。専門学校時代には、道の駅で販売されている商品の生産者に直接連絡を取って、就農先を探していました。

農業のやりがいは、自分が育てた野菜を買ってもらったり、「おいしい」と言ってもらえることです。また、地域の農家の方々と交流で、また、近くの幼稚園の園児たちが楽しそうに芋掘り体験をする姿を見たりすることも、日々の楽しみであり、励みになっています。

人とのつながりが、農業を続ける大きな支えになつています。

**人とのつながりが励みに**  
農業のやりがいは、自分で育てた野菜を買ってもらったり、「おいしい」と言ってもらえることです。また、地域の農家の方々と交流で、また、近くの幼稚園の園児たちが楽しそうに芋掘り体験をする姿を見たりすることも、日々の楽しみであり、励みになっています。人とのつながりが、農業を続ける大きな支えになっていますね。

一方で、農業は天候に左右されるなど思い通りにいかないことも多く、毎日試行錯誤を重ねています。時には、先の見通しが立たず「何が分からないのかが分からない」と感じる難しさに直面することもあります。

それでも、一つひとつのが失敗を経験として積み重ね、自分なりのやり方を見つけて、少しずつ成長していくから農業を始めたい方へ

まずは、実際に農業を体験してみることをおすすめします。週1日の休みに農家でアルバイトをする、ま

たは会社勤めをしながら農業を始めるのも、一つの方法です。

農業は経験がものを語り世界ですし、どれだけ良いものを作つても、他の生産者がより良いものを作れば価格は上がらない、そんな厳しさもあります。

それでも、生活をかけ命をかけて臨む価値のある仕事だと思っています。

たは会社勤めをしながら農業を始めるのも、一つの方法です。

農業は経験がものを語り世界ですし、どれだけ良いものを作つても、他の生産者がより良いものを作れば価格は上がらない、そんな厳しさもあります。

それでも、生活をかけ命をかけて臨む価値のある仕事だと思っています。

### 地域の農業を支える存在について

今後の目標は、組合としての農業経営の拡大です。まずは来年1人雇用するところを予定しているので、新たな仲間と一緒に、野菜と米づくりの技術をさらに磨いていきたいです。

将来的には、培った技術を次の世代へと引き継ぎ、地域の農業を支える存在になりたいと考えています。



# 家族を想い選んだ 新しい人生

こだま しょう  
児玉 将さん

のぞみ野で独立営農を目指す  
新規就農者。

農家の方の姿を見て「かっこいい」と憧れを抱いたのが最初のきっかけでした。

2つ目は、コーチを務める少年サッカーチームの企画で、子どもたちと一緒にとうもろこしを育てた体験です。これが想像以上に楽しく、自分でもやつてみたいといつ気持ちが芽生えました。そして3つ目は、3人目の子どもの育児休業中に、家族との時間の大切さを改めて感じ、子どもが起きた前に家を出て、寝静まつてから帰宅していた、自身の働き方を見つめ直したことでした。

農業経験は全くなく、生まれも育ちも農業とは縁がありませんでしたが、妻に本気で取り組む覚悟を伝え、理解を得られたことで、本格的に就農を決意しました。

**自分に合った「農業」を**  
現在は、夏にとうもろこしとスイカ、秋から冬にかけては大根とキャベツを中心栽培しています。

今後の目標と、これから農業を始めたい方へ

まずは技術を磨き、現在の農地で収穫量の更なる増加と安定を目指します。将来的には規模拡大も視野に入れていますが、少年サッカーの指導や家族との時間も大切にし、無理なく両立できる形を考えています。

これから農業を始めたい方には、本気で農業に取り組む覚悟と责任感の大切さを伝えたいです。農業は気候や市場価格の変動により、日々の努力が必ずしも結果に直結しないこともあります。それも踏まえたうえで農業に向き合い、また成功談だけでなく失敗談も含めて学ぶ姿勢を持ち続けすることが大切です。地道な努力を重ねる覚悟を持つて、挑戦してほしいと思います。

## 自分に合った「農業」を

A portrait of a young man with dark hair, smiling broadly. He is wearing a black zip-up jacket over a dark shirt. He is leaning against a white railing, with a green field and a building visible in the background under a clear sky.

ます。家族と過ごす時間が  
増えた」とも、大きな喜び  
です。

また、地域の農家の皆さ  
んとの繋がりも大切にして  
いて、とくに、師匠と仰ぐ  
先輩農家の方との出会い  
は、私にとって大きな支え  
となつて、います。